

桜中ニューノーマルを考える

桜だより

令和2年
12月16日(水)

向学
友愛
英気

赤磐市立
桜が丘中学校
校長 村松 敦



086(955)3211

激動の令和2年が暮れようとしている。今まで当たり前だと思ってきたことが、如何に貴重なことだったのか、あるいは大したことではなかったのか考えさせられた一年。いつ何が起きるか予測不能な時代、「ニューノーマル(新たな常態・常識)」が問われている。では、本校のニューノーマルは何が成果で、何が課題だったのか。ニューノーマルは、何かを得るために何かを捨てるトレードオフ。桜中ニューノーマルは、ご家庭の理解と協力なしには実現しない。この機会に家族の団らんで話題にしてみてください、今後の持続可能な教育計画を共に考えていただきたい。

桜中ニューノーマル

本校のニューノーマルは、二重構造だ。昨秋から準備してきた「未来が見える学校プロジェクト」(テスト・宿題改革「考動改革」時程改革)の3つの改革と、今春、突如襲われたコロナ禍によるウィズコロナの対応。たとえば、気温や体調に応じて服装を選べる「かたさば」桜中クールビズやウォームビズは、感染症対策を検討する過程で「考動改革」の一環として取り込まれた。また、4月の家庭訪問や10月の中間テストを行わなかったのは、コロナ禍の影響ではなく、プロジェクトを止めることを既に決めていた。左表を見て分かる通り、新たに始めたことより止めたことの方が多い。元々予定していたものはともかく、コロナ禍が作用したものは今後桜中ニューノーマルとして続けていくのか。特に中止したものについては、さらに慎重な検討が必要だ。

さて、「未来が見える」学校プロジェクトは、急速に変化し将来予測の難しい社会をしながらに生き抜く力の育成を目指している。元々、コロナ禍のような状況にこそ適応する学校改革である。おそらくクールビズやウォームビズは、コロナに襲われていなくても登場していただろう。しかし、新たな取り組みを次々に増やす改革だったら、それはなかった。

元々予定していた主なもの	コロナ禍が作用した主なもの
<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問の中止 中間テスト、長期休業明けの課題テストの中止 一斉清掃から当番清掃への転換 選べる宿題やノートを持ち込むテスト、再チャレンジテスト 5:30下校 	<ul style="list-style-type: none"> 桜中クールビズ・ウォームビズの実施 さっチューブによる動画配信 旅行行事や職場体験・福祉体験の中止 PTA総会や参観日、廃品回収の中止 諸行事への参観者(来賓)の入場制限

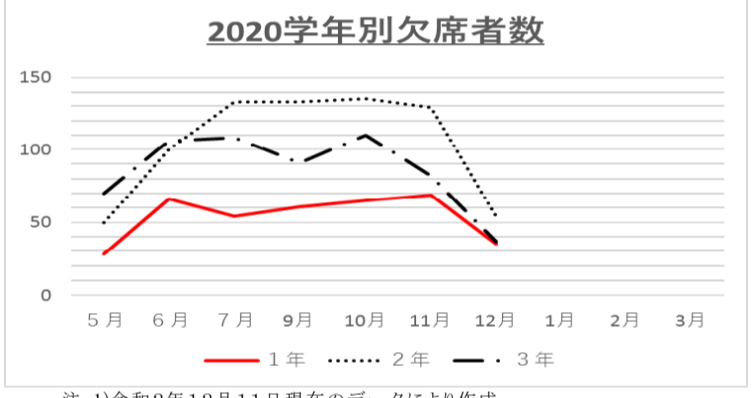
効果を測る欠席者数

では、なぜ桜中ニューノーマルの多くが「止め」改革なのか。左の「1日あたりの欠席者数」のグラフを「覗いた」いただきたい。今までの桜中は、「あつらひ休み」生徒が学期を追うことに増え続ける傾向があり、一昨年は1年での約3500に及んだ。生徒は500人余りなので、1人当たり7回は休み。通常学級は15クラス程度なので、1クラスあたり毎日1人以上の欠席者がいる計算になる。本人の病気はもちろんな、人間関係や家庭環境など様々な事情で休み(休む)ことある。欠席は悪ではない。「休んではならない」と強制されなくても、自分から学校に「行きたい」と思える値打ちがあるかどうか欠席者数に表れているのだ。

特に、体育会や合唱コンクール、備東総体など大きな行事の前夜に急増し、学期末には減少する。実は、遅刻・早退も似た傾向。つまり、練習が佳境に入ると「まだやるん、もうええが」、行事が終わると「もう十分」が欲がない。欠席は「体調不良」、遅刻は「寝坊」が多く、要は「だるく」なるケースが少なくなかったのだ。



注 1)令和2年12月11日現在のデータにより作成
[産出方法] 月の換欠席者数÷授業日数
2)欠席者には出停・忌引等を含む



注 1)令和2年12月11日現在のデータにより作成
2)欠席者は出停・忌引等を含む実数
3)5月と12月は授業日数が少ないため、欠席者の実数が少ない

この波を如何に抑え、「もつとやりたい」というエネルギーをコントロールするか。それは、ON・OFFをハッキリさせる。だから「止め」る。そしてスッキリさせる。「物足りない」と「もう十分」。多くの生徒が「もつとやりたい」と願う集団では、「もう十分」とは言いにくい。活気に満ちた集団の雰囲気があれば、何にでも挑戦できそうに楽しくなってくる。欠席者数は、個人と集団両方のエネルギー量を測る基準になるのだ。

では、改めて上のグラフを見てみよう。ほぼ横ばいの実績が今年度。欠席者数にはインフルエンザ、感染不安や本人・家族の風邪症状などを申し出る出席停止を含んでいる。増減の波が抑えられている。気がかりなのは、右の「学年別欠席者数」のグラフ。昨年欠席の少なかつた2年生の欠席が3年生を上回ってきた。また、3年生の遅刻・保健室利用が増加傾向にある。

実は、今まで学年別の傾向は、学年を追うに従って欠席が増えていた。つまり、今年の3年生は例年に比べてエネルギーをコントロールできていたのだ。目標にできた最後の大会・コンクール、楽しみにしていた修学旅行が中止になったにもかかわらず、彼らは桜華祭文化の部(合唱コンクール)・体育の部でエネルギーを爆発させた。その後、平日はもうろん土曜授業でも概ね学業に集中できていた。

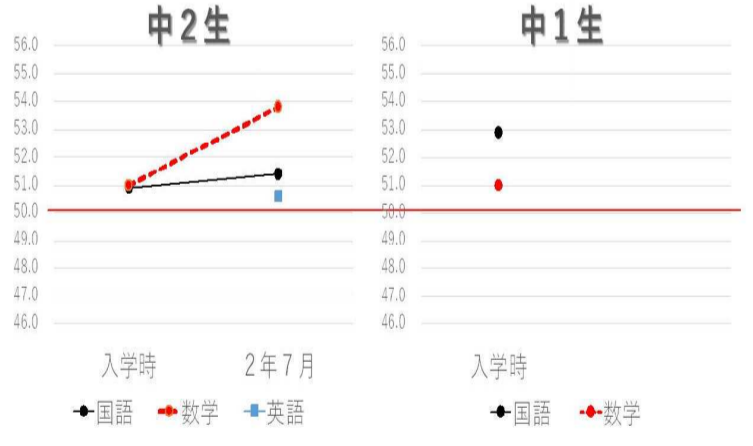
だが、集団の成熟に比べて、個々の自己調整(セルフマネジメント)力には濃淡がある。「このくらいいいか」と自分の可能性に見切りを付けるのはまだ早い。単位制になる高校・大学は、遅刻や欠課(保健室利用などで授業を受けられない)が不認定につながる。社会では信用にかかわる。卒業まで自分と闘って、少しでもセルフマネジメント力を高めてほしい。君たちには支え合う仲間がいる。

楽しみな学力

右のグラフは、毎年、中1と中2で実施の岡山県学力調査の偏差値(平均を50として、そこからどれだけ離れたかを示す指標)。

*中3で実施の全国学力調査は中止になった。この数年、すべての学年で50を安定して超えることはできていなかった。だが、一瞥のとおおり、2年生は既に入学時でやや上回り、1年で相当力を付けた。県下で最も長い休校期間が明けて2ヶ月足らずだったことを考えると、立派な結果といえるだろう。

ただ、この学力調査結果、例年は3年生の全国調査で下降し、グラフは「へ」の字を描いてきた。いわゆる中弛みである。おそらく今年の3年生で全国調査が実施されれば、右肩上がりのグラフになったであろう。2年生の真価が問われるのはこれからだ。先述の欠席の増加が気になるが、3年生がたくましく青春を謳歌する姿は、何物にも代えがたいモデルとなったはずだ。「自分たちにもできるだろうか」と不安になるほどの凄みがあった。だからこそ、偉大な存在を越えてほしい。好スタートを切った1年生が、今年度は君たち2年生の背中を見ている。ひよつとしたらすぐ追いつかれる距離に迫ってきているかも知れないが、君たちは地力を付けてきている。どうか自信をもって挑戦してほしい。2学年とも、新年度の学力調査が楽しみでならない。



桜中ニューノーマルの今後

桜中ニューノーマルの核である「未来が見える」学校プロジェクトの3つの改革とウィズコロナの対応は、一定の成果を上げている。

R2.5.1現在の生徒数

桜が丘	519	備前	302
邑久	413	和気	242
長船	333	磐梨	205
高陽	273	日生	115
加賀	234		
牛窓	119		
伊里	115		
吉永	87	赤坂	82
吉井	68	佐伯	56
三石	29		

本校の最大の特徴はサイズ。東備地区16校中で群を抜く生徒数を抱え、赤磐市の約半数の中学生がいる。さらに来年は550名を超える見通し。故に様々な個性・価値観の生徒・家庭がいて、多様性に富んでいる。桜中ニューノーマルは、「自由」「望んだことが実現できる」と期待される。もちろんルールで縛る統制より、多様な個性が尊重される学校でありたいが、多様な個性・価値観は、自己調整(セルフマネジメント)力によって、そのエネルギーをコントロールされなければならぬ。我々が「自分の頭で考えること」を求め、急速に変化し将来予測の難しい社会では、何かを得るためには、自己責任によってリスクを引き受けるトレードオフの覚悟が必要にならざるを得ない。

さて、本校のニューノーマルは成果を上げたが、様々な行事の制限や中止と言ったデメリットもあった。一方で、失うことや制約を受けることで得たものがあった。保護者のみなさんの参観授業や桜華祭の応援は叶わなかったが、さっチューブによる動画配信は、毎回概ね100件を超えた。朝の部活動はできなくなったが、欠席や遅刻・早退が減って生徒と教職員に穏やかな朝の時間が訪れた。

今後、さっチューブは、生徒やPTA広報部に制作を委ねられないか。学校評価アンケートは、このアカラントでGoogleフォームを使って行う。いよいよ学校と家庭とが双方でつながるツールへと移行させたい。

部活動については、朝の練習を止めて、ボランティアや自主学習などに振替られないか。3年生が卒業まで活動できるようにできないか。すでにバドミントンや陸上競技で実現し、バスケットやバレー、柔道などでも部分的に行われているように「物足りない」も「もつとやりたい」であれば、家庭・地域の協力を得て活動できる仕組みをつくることのできないか。

いずれも、すべて教職員が抱え込むのではなく、生徒や家庭の力を信じ、地域と役割を分かち合う共育システムの創造である。みなさんは、どう考えるだろう。

【主な表彰の軌跡】

県秋季大会

- バスケット男子: 3位 * 2年連続
- 柔道男子団体: 3位 * 個人3位
- バドミントン男子: 3位 * 2年連続
- バドミントン女子: 優勝 * ダブルス: 3位
- 陸上競技女子3000M: 3位

備東地区秋季大会

- ソフトテニス女子団体: 優勝
- 剣道男子団体: 優勝

その他

- 県科学発表会: 優秀賞
- 赤磐・加賀支部弁論大会: 優良賞
- 伊藤園お〜いお茶新俳句大賞: 佳作

【お願い】

厚労省によると、12月8日現在、病床の使用率が医療体制に大きな支障が出るおそれのある「ステージ3」の指標20%を岡山、広島など19県で上回った。1月には多くの生徒が受験する私立1期入試。3年生が落ち着いて過ごせるよう感染症対策にご理解とご協力をお願いしたい。

個別懇談

- 保護者の方のマスク着用とスリッパの持参、防寒対策。
- 教員による飛沫防止アクリル板越しの懇談。

冬休みの生活

- お子さんの部活動の対外試合の中止・延期。
- ご家族の不要不急の繁華街への外出や旅行の自粛。(※差し出がましいことを申し訳なく)